



河合サテライト通信 第40号

2009年11月9日

学校法人 河合塾 営業企画部

朝夕、冷えるようになりました。皆さん、体調を崩さないように十分注意してください。さて、先日2010年度のセンター試験の出願が締め切れ、526,406人もの出願がありました。本格的な受験シーズンがやって来ます。高3生の皆さんは各社の模擬試験を忙しく受験していることでしょう。

なかなか思うように偏差値が伸びず、出願予定大学を変更しようかと悩んだりすることもあります。今は決して諦めないで、力を尽くしてください。ここからの辛抱で、やがて大きな実を結ぶのですから。

〈編集担当：高瀬 優〉

1. 高3生の皆さん「もし、スランプになったら…」



11月に入り、急に寒さが強くなりましね。こうして、秋が深まるにつれて高3生の皆さんには、試験本番に向かう緊張感が増してくる頃となります。

さて、いささか私事で恐縮ですが、先日、筆者のもとに知人がやって来て、「高3の娘が記述模試を受けたのだが、得意の英語が全然できなかったのがショックで、他教科を受験せずに帰ってきてしまった。今の時期に、こんなことでどうしたらよいのか…」と嘆くのです。筆者とて、大学受験を控えた高3の息子を持つ身ですから、その気持ちはよく解かります。しかし、最も

辛い気持ちなのは、その娘さんです。そこで、筆者は「それは、きっとスランプだよ。センター試験や大学入試本番でなくて良かったね。あせらず、本番までに調子を取り戻せば大丈夫。」と諭しました。

たしかに、今頃実施される模試の判定は、受験大学の合格可能性を確認する上でたいへん重要ですが、模試結果がA判定だから、100%合格する訳ではありません。筆者は「受験しなかった教科の問題を友人から借りて、時間を計ってやらせること。そして、解答解説をよく読んで復習すること！」と伝えました。本人にとって模試問題を見ることは辛い思い出が蘇ることですが、このようにすれば、それを乗り越えた経験となり、後々、自信につながります。皆さん方も、「自分は本当に大丈夫なのかなあ？」と不安になったり、模試の成績が伸びないのであせったり、勉強する気が起きない等、スランプになる危険性があります。そして、「ああ、スランプだあ〜」と分かっているけれど、脱出方法が分からないので困惑することがあります。スランプは誰にでもおとずれるものです。トップレベルの難関大学を受験した先輩方の多くがスランプに陥った経験をしており、うまく脱出し、見事に合格を手にしております。

そこで、彼らは「どのようにしてスランプを脱出したのか」まとめましたので、参考にしてください。

まず、**第一は、「新しいことに着手しない」**ことです。気分を変えようと新しい問題集を買ってやろうとしますが、得策ではないようです。彼らは絶好調だった頃の自分を取り戻すために、**スランプになる前から使っている問題集を何度も繰り返し解き直して、調子を取り戻しています。**スランプとは誰でもなるものだとは割り切り、余計な心配をせず、「いつもやっている学習をひたすら継続していく」ということです。ただし、真面目に勉強しているから、スランプに陥るのであり、もともと勉強していない人にスランプは来ないのです。また、同じ問題集を何度も解きなおす場合、完璧な解答を作成できる時間を毎回計って、回を重ねるごとにその時間が早くなっていくことで、調子が上っている実感できたそうです。**第二の脱出方法は、**とりあえず「**好きな教科や得意教科を重点的に学習する**」ということです。苦手教科に嫌々取り組むより、好きな教科を思う存分やってみる方がより早く調子を取り戻せるということです。そして、調子が取り戻せたならば、苦手教科にも取り組む気力が湧いてくるということです。

第三には、「自分の人生の目標を意識することが大事」だということです。つまり、「**第一志望の大学生である自分をイメージする**」ことで、**受験勉強のモチベーションを上げることができる**のです。具体的には、将来の職業→その職業に必要な大学・学部・学科の選択→その大学の合格に必要な受験教科と実力(偏差値など条件)というように、大きな目標から順に降ろして真剣にイメージしてみることが重要なのです。最後に、**スランプになっても決してあわててはいけません。スランプを脱出できる時は必ず来ます。その時まで、受験生として最低限のことはしておかないと、スランプ前までの努力を無駄にしますし、ライバルから大きく差をつけられます。「焦らないで、投げ出さないで、継続しましょう！」**

〈裏面に続く〉

2. 2010年度大学入試センター試験追試験等の日程変更について

文部科学省から、「2010年度入試における新型インフルエンザへの対応方針」が発表されました。この中で、大学入試センター試験については、追試験の延期を決定しました。追試験とは、インフルエンザや病気などの理由により、本試験を受験できなかった受験生を対象として実施されるもので、2010年度の本試験(1月16・17日)の1週間後に予定されていました。過去の追試験では対象者が千人を超えた年はありませんでした。しかし、今回は新型インフルエンザ感染が拡大する恐れがあり、対象者数の規模も膨大な数になると予想されます。そのため、実施要領を再検討されていました。その結果、発症した受験生の治療時間・体調回復等を考慮すると、本試験との間隔を広げることが適切と判断し、当初予定から1週間後にずらした1月30・31日に実施日を変更されました。さらに、追試験の会場についても通常、東京と関西地区の2ヶ所のみで予定されていましたが、今回は全都道府県に会場を確保することにより、追試験対象者の増加に対応でき、受験生の諸々の負担軽減をはかることとなりました。

一旦発表されたセンター試験の日程・会場等を変更することは、異例の措置です。なお、日程変更に伴い、成績提供の提供開始日が、2月2日以降から一律に2月5日からに変更されます。

3. 国立大学の一般入試における特例措置について

文部科学省発表の「2010年度入試における新型インフルエンザへの対応方針」の中で、前項のとおり大学入試センター試験の追試験延期を発表するとともに、各大学にも新型インフルエンザなどで試験を欠席した受験生の受験機会の確保を要請しておりました。今回、国立大学協会から、この要請に応え、国立大学が取るべき基本的方向性が示されました。具体的には、一般選抜における追試験の実施、またセンター試験を参考とした合否判定などが挙げられております。今後、各国立大学は、これらの措置について実施の検討に入ることとなります。なお、この措置は2010年度限りの特例と位置づけられます。

一般入試の追試験については、次のことが決められました。実施期日は本試験の概ね1週間後とし、2010年度の特例措置であることから、新型インフルエンザ罹患者および罹患者の疑いある者を対象とすることが基本となります。ただし、対象者に「各大学が特に認めるものを対象者に加えたり、絞り込みを行うことは妨げない」とし、各大学の判断により新型インフルエンザ以外の理由による欠席者にも受験の機会を与える余地があり得ます。対象者の認定方法については、本試験1週間前から本試験当日までの間に追試験受験申請書及び診断書を提出させるなど、センター試験での追試験認定方法を参考にして各大学が定めることとなります。最も気になる合格者の決定・発表については、前期・後期日程ともに本試験・追試験あわせて行うものとしています。また、センター試験の追試験の日程延期により注目の個別学力検査(二次試験)の出願期間は、変更しないことが示されました。この特例措置は、大学の実情に応じて適切に行うものであり、実施の判断は各国立大に委ねられています。試験日程が長期間に及ぶ芸術系学部などでは現実的に追試験実施が難しいと思われませんが、多くの国立大学で、追試験等の対応がなされることが望まれています。すでに、新型インフルエンザ関連の対応を公表するホームページを設置した大学も見受けられます。受験生の皆さんはホームページなどを確認して、入試日直前まで出願する大学から発表される情報に十分注意してください。

4. 理科・地歴・公民のセンター試験対策学習をやっていますか？

⇒まだ始めていない皆さんは、河合サテライト「センター試験対策講座」受講をぜひご受講ください。

2009年度設置・短期講座一覧

1講45分[但し、※講座は除く] ()内数字は講座コード

理 科	物理Ⅰ：基礎編(8277)全10講	実戦編(8278)全10講
	化学Ⅰ：基礎編(8279)全10講	実戦編(8280)全10講
	生物Ⅰ：基礎編(8281)全10講	実戦編(8282)全10講
	※地学Ⅰ(7283)1講90分×全5講	
地歴公民	日本史B(8284)全10講	世界史B(8285)全10講
	地理B：系統地理編(8286)全10講	地誌編(8287)全10講
	政経(8288)全10講	
	※現代社会(7289)1講90分×全5講	※倫理(5391)1講90分×全5講



※なお、今回、2010年度大学受験スケジュール立案用フォームを付録としてお送りしております。河合サテライト通信第39号記事2を参考に、このフォームを活用して、ムダと無理のない、大学受験スケジュールを立ててください。

河合サテライト通信第40号 ご愛読ありがとうございました。